

01

話題提供者

北海道・市立札幌藻岩高校
教諭

佐々木佑季

ささき・ゆうき 教職歴11年。同校に赴任して3年目。数学科。3学年担任。進路指導部。探究委員会委員として3学年の「総合的な学習の時間」を担当。サッカー部顧問。藻岩高校は2021年度入学生より、学年制から単位制高校に変更予定。現在、学校改革が進行中。

新しい探究学習をつくるためには、 教師も学び続ける必要がある

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、思うように探究学習が実施できていない高校が少なくない中、北海道・市立札幌藻岩高校では、今年度の探究学習を臨時休業中に全学年でスタートさせました。いち早く探究学習に取り組んだ理由と当時の状況、今後の展望について聞きました。

臨時休業中の5月から 探究学習をスタート

私が勤務する北海道・市立札幌藻岩高校では、今年度の探究学習を臨時休業中の5月から全学年で開始しました。校内は、オンライン授業の準備などで忙しい状況でしたが、いち早く探究学習をスタートさせたのは、この不測の事態は、生徒が“探究者”として学びを深めるためのよい機会だと考えたからです。

以前から探究委員会を設置し、全校体制で探究学習に取り組んでいたのも、素早いスタートを実現させることができた理由の1つです。本校では、生徒に身につけてほしい5つの資質・能力を“MOIWA 5Bs”と定義しています。それは、“Be a logical communicator”（ことばの力がある）、“Be a creative thinker”（考える力がある）、“Be an imaginative person”（想い浮かべる力がある）、“Be a risk-taker”（試そうとする力がある）、“Be a high-grit person”（やり抜く力がある）の5つです。

本校の探究学習は、その5つの資質・能力を身につけてもらうための学びとして位置づけられており、1年生は「実体験を通して社会に目を向ける」、2年生は「社会の一員として、地域の課題解決に向けたアイデアを共創する」、3年生は「持続可能な社会とそれを担う自己の未来を描き、行動する」をテーマに掲げ、活動してきました。

3年生向け講演会も 動画で配信

例年、生徒たちは地域の方や社会人とつながりながら、それぞれの探究テーマに取り組んできました。しかし今年度は、5月末まで臨時休業が続き、地域の方とつながることができませんでした。また、双方向型のオンライン授業の準備にも時間がかかりました。そこで、まずはワークシート形式の探究学習を実施することにしたのです。新型コロナウイルスの感染拡大に対してどのようなことを感じたのか、学校の意義は変わったか、元々あった地域課題にコロナ禍は影響を与えたのか、自分の希望進路は変化したのかななどを記入するワークシートに各学年が取り組ませました。

さらに、「ミライ design テーマ別講演会」という3年生対象の講演会は、大幅に仕組みを変えて実施することになりました。例年は講師として、十数人の社会人の方に来校していただき、生徒は希望する講師のブースで話を聞く形式でした。今年度は、私が15人の社会人にインタビューし、その様子を撮影した動画を生徒のみが学校のホームページから閲覧できる形式にしたのです。業種も職種も異なる方々に話を聞いたのですが、皆さん、日トリアル&エラーしながら働かれていることが分かり、「働くことは、探究することだ」ということを自分自身も実感することができました。

教え込みから、生徒自身に 気づきを与えるスタイルへ

私は教師になって、今年で12年目になりますが、もし、新米教師であったのなら、「働く」というテーマで自分が社会人と対話する動画を生徒に見せるという発想にはならなかったかもしれません。録画や配信といった技術的な課題以上に、若い頃の私は、正しい答えを生徒に教えることが教師の役目だと思っていたからです。ただ、4年目に差しかかった頃、教師が正解を教えるだけでは、生徒は学びを深められないのではないかと感じるようになりました。その後、サッカー部の顧問となり、外部の指導者講習会に参加し、コーチングを学び始めたことで、生徒と同じ目線に立って対話し、生徒の気づきを待つのも、学びを深めるアプローチの1つだと考えるようになったのです。

「ミライ design テーマ別講演会」のインタビューでは、生徒と同じ目線で社会人の方に話を聞くことを心がけました。その結果、「もっと講師の方から話を聞きたい」といった声が生徒の中から上がったため、臨時休業明けの6月の「総合的な学習の時間」に、オンラインビデオ会議システムで講師と教室をつなぎ、対話の時間を設けることにしたのです。

今回のワークシートや「ミライ design テーマ別講演会」を通じて、多くの生徒が進路への思いを強め、社会の情勢を踏まえて、しっかりと自分の将来を見つめ直してくれたことをうれしく思いました。

教師自身が探究する姿を 生徒に見せることが重要

オンラインでフィールドワークを行うなど、今後も探究学習におけるICT活用を進める必要があると考えています。その際、生徒の情報機器の活用能力を高めていかなければならないなど、新たな課題も感じています。

教師の仕事はその気になれば1人でも完結できるため、ともすれば、ほかの教師の授業から学ぶこともなく、何年間も同じ授業をしていた……ということもあり得ます。今、学校を取り巻く状況は大きく変化しているため、生徒に提供する学びも変化させ続けなければなりません。特に、探究学習では、教師はファシリテーターとして生徒に伴走することが重要であるとされていますが、伴走という名の傍観にならぬよう、まずは教師自身が探究する姿を生徒に見せていくべきだと考えています。そのため、これからの学校のあり方や教育の手法について、私自身、もっと勉強していかなければならないと思っています。そして、校内外の先生に、授業に対する自分の思いや意見を発信し、新しいアイデアをもらいながら、探究学習のあり方を始め、これから目指すべき教育と、自分なりの実現の仕方を模索していきたいと考えています。